

優秀賞



設計担当者

西川英治

石川県建築士会、(株)五井建築研究所

公衆浴場、児童福祉施設等、事務所／石川県輪島市河井町貳部

輪島KABULET

構造 | 木造、一部鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造

階数 | 地上3階

敷地面積 | 769.99㎡

建築面積 | 544.46㎡

延べ面積 | 881.45㎡

竣工 | 平成30年4月4日



選評

このプロジェクトの中心は障害者の就労支援施設である。それを認識するまでに、かなり時間がかかった。それほどに「ごちゃませ」感があったのだ。輪島市の中心地に点在する空き家、空き地を利用して地域コミュニティ再生を試みたプロジェクト。街にピカピカの新しい風景をつくるのではなく、人々が慣れ親しんだ風景を継承するように、街に住む人たちに馴染みよく愛される風景をつくることを目標としていて、確かにそれは成功している。空き家を地域の空間資源ととらえ「あるものを活かす」という設計姿勢を基本に、それぞれをつなぎ、機能を持たせ、性能を向上させ安全性を確保しながら街角をつくっている。結果的に、それが、いい意味での「ごちゃませ」の風景を見せてくれている。

機能は、温泉＋食事処（拠点施設）、高齢者デイサービス、ウェルネス（健康増進施設）、

ママカフェ（子育て世代の交流）といった地域交流施設で、このプロジェクトエリアを中心に、周辺には障害者グループホーム、高齢者ショートステイといった福祉施設や、ゲストハウスなどの宿泊施設や配食センターが点在していて、これら多くが障害者の就労支援施設になっている。

「ごちゃませ」とは建築主の社会福祉法人の施設運営理念であるが、「障害があるなしに拘わらず、年齢差・男女差に拘わらず、そこに住む人たちが関わり合いを持つことで、ひとりひとりが、生きがいを持って生きる環境を創る」という考え方だ。ダイバーシティなどという言葉より、多くの人の心に届く。

拠点施設の前庭と、道路を隔てた全面ガラス張りのウェルネス施設の1階スタジオは、地続きのように一体空間で、スタジオで老若男女

が爽やかに運動しているシーンが目につく。2階トレーニングルームの窓からは、拠点施設である温泉や食事処、高齢者デイサービスの前庭を見降ろすことができる。なだらかな坂道でできているその広場は、街角にふくみをもたせ、プロジェクトの目的である「ごちゃませ」を受け入れるほのぼの感がある。

拠点施設の温泉は、温泉無料地域の住人にとって、無くてはならない場所に違いない。また街中にある、これも古家を改修したゲストハウスの宿泊者もこの温泉に行くのだと聞いた。広場の奥にあるこの温泉でこそ、「ごちゃませ」のコミュニティ形成は確実である。

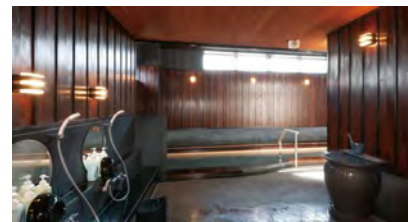
この街を住民のために変えていく、これら現実的で継続的で親身な設計活動に対し、敬意を評したい。（三澤文子）



2



3



4



5



8



6



7



配置図兼1階平面図



9

- 1 ウェルネス2階より拠点施設を見る。地域住民や多世代のさまざまな交流が営まれる
- 2 伝統的な外装を用いた拠点施設を通りから見る
- 3 同・廊下から食事処を見る
- 4 同・温泉施設「三の湯」。漆を用いた輪島塗の内装
- 5 高齢者デイサービス施設のデイルーム内観
- 6 前庭からデイルームを見る
- 7 ウェルネス2階トレーニングルーム。拠点施設中庭を見下ろしながらトレーニング
- 8 拠点施設中庭と対面するウェルネス1階スタジオ
- 9 ママカフェ内観。キッチンが北欧の備品で統一